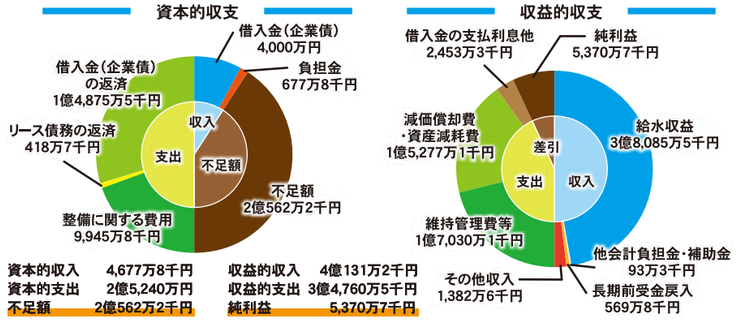
水道事業・公共下水道事業の経営状況

水道事業、下水道事業の令和５年度の経営状況についてお知らせします。
※下水道使用料は、令和６年４月に改定しています。令和５年度は、改定前の下水道使用料です。

水道事業



最初に日々の事業活動に必要な収益的収支から見てみましょう。

まず、収入は４億１３１万２千円で、そのうち水道料金は３億８０８５万５千円となり、全体の94・９％を占めています。

一方、支出は３億４７６０万５千円で、そのうち安全な水道水を作る費用や電気代、施設の修理などの維持管理費が１億７０３０万１千円、借入金等の支払利息が２４５３万３千円などとなりました。

次に、水道施設の建設や整備などに必要な資本的収支を見てみましょう。

収入は、施設の更新や改良工事を行うための借入金や負担金など４６７７万８千円となっています。

一方、支出は２億５２４０万円で、内訳は、老朽化による水道管の改良工事や浄水場等の機械更新などに９９４５万８千円、これまでの施設整備の借入金やリース債務の返済に１億５２９４万２千円となりました。支出に対する収入の不足分は、減価償却費やこれまでの積立金で補いました。

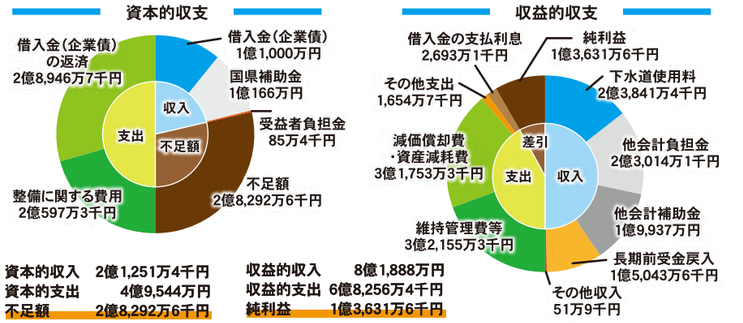
令和５年度は、事業は料金収入で賄えていますが、今後人口減少に伴う料金収入の減少等により、利益は減少していくと見込まれています。また、施設の老朽化に伴う更新に多額の資金が必要となり、経営が厳しくなることから、収益の確保等を図り、経営の健全化に努めてまいります。

■問合せ　水道課管理係　TEL72-0224

令和5年度の水道の供給単価と給水原価(税抜)

有収水量	料金収入	供給単価	給水費用	給水原価	利　益
233万4,739㎥	３億8,085万５千円	163.13円/㎥	３億4,190万７千円	146.44円/㎥	16.69円/㎥

公共下水道事業



最初に日々の事業活動に必要な収益的収支から見てみましょう。

まず、収入は、８億１８８８万円で、そのうち下水道使用料は２億３８４１万４千円と全体の３割程度で、一般会計から４億２９５１万１千円の負担金、補助金を繰り入れて運営しています。

一方、支出は６億８２５６万４千円で、そのうち３億２１５５万３千円は、日々の下水処理に関する維持管理費で、下水道使用料と比べて大幅に多くなっています。

次に、下水道施設の整備や借入金に係る資本的収支を見てみましょう。

収入は、借入金や国の補助金など２億１２５１万４千円となっています。

一方、支出は４億９５４４万円で、内訳は、終末処理場汚泥濃縮施設の更新事業や管きょ施設の更生工事などの施設整備に関する費用に２億５９７万３千円、これまでの施設整備の借入金返済に２億８９４６万７千円となりました。支出に対する収入の不足分は、減価償却費や収益的収支の純利益で補いました。

このように、下水道使用料で維持管理費を賄えないことから令和６年度は下水道使用料の改定を行いましたが、将来的には使用量の減に伴い下水道使用料は減少し、物価上昇から汚水処理費用は増加が見込まれています。今後も厳しい経営状況が続いていきますので、事業の効率的な運営を図り、経営の健全化に努めてまいります。

■問合せ　水道課下水管理係　TEL73-1091

令和5年度の下水道の使用料単価と汚水処理原価(税抜)

有収水量	下水道使用料	使用料単価	汚水処理費用	汚水処理原価	利　益
138万2,620㎥	２億3,841万４千円	172.44円/㎥	３億3,268万７千円	240.62円/㎥	△68.18円/㎥

令和５年度ふるさと納税実績報告

寄附件数

38,293件

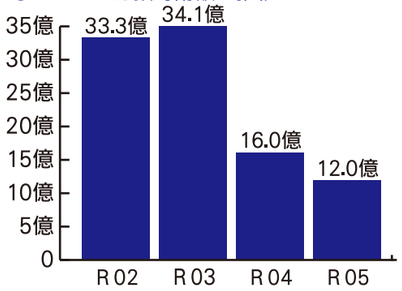
令和4年度実績=64,733件
令和4年度比較　0.59倍／26,440件減

寄附総額

12億339万円

令和4年度実績=15億9,948万円
令和4年度比較　0.75倍／3億9,609万円減

◎ふるさと応援寄附額の推移



ふるさと納税とは

ふるさと納税は、「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として、平成20年に始まった制度です。「納税」という言葉がついていますが、実際には都道府県、市区町村への「寄附」です。ふるさと納税では、原則として自己負担額の２０００円を除いた全額が所得税及び住民税の控除対象となります(ただし、一定の上限があります)。

制度開始以来、本市では「枕崎市ふるさと応援基金」を創設し、まちづくり関係の事業に活用してきました。

さらに、平成27年度から寄附者への返礼事業を開始し、枕崎の特産品等を返礼品として送付しています。

令和５年度の寄附件数は８２９３件、寄附総額は12億３３９万円で、全国１７００を超える自治体の中で寄附総額が２１９位となり、多くの寄附をいただいています。

いただいた寄附金は、「枕崎市ふるさと応援基金」に積み立て、「枕崎市ふるさと応援寄附条例」で規定する事業に活用しています。

ふるさと応援寄附額の内訳(使途別)、ふるさと応援基金を活用した主な事業については、以下をご覧ください。

◎枕崎市ふるさと応援寄附条例

寄附者の想いを反映した魅力的で活力あるふるさと枕崎の構築に資することを目的に、寄附金の管理運用等について必要な事項を定めている条例です。

◎枕崎市ふるさと応援基金

ふるさと納税の寄附金は、返礼品と送料に係る経費を除いて一旦、枕崎市ふるさと応援基金に積み立てられます。その後、取り崩し、ふるさと応援寄附条例で使途が規定されているまちづくりに関する各事業に活用されます。

【ふるさと応援寄附額の内訳(使途別)】

1	自然環境保全やまちなみ景観整備など生活環境の整備等に関する事業	122,719,336円
2	快適で便利なコンパクトなまちづくりを目指した都市基盤の整備等に関する事業	17,527,666円
3	農林水産業をはじめとする地場産業や観光の振興等に関する事業	90,360,832円
4	出産・子育て支援をはじめとする福祉の増進や健康増進等に関する事業	188,482,833円
5	教育・文化・芸術・スポーツの振興等に関する事業	63,805,500円
6	市民や地域づくり団体との協働等による市民ぐるみのまちづくり等に関する事業	10,902,333円
7	その他まちづくりに関する事業	6,821,000円
8	使途の指定なし	702,771,000円

【ふるさと応援基金を事業に活用した総額(令和５年度)】

11億円

【ふるさと応援基金を活用した主な事業(寄附金活用額)】

1	生活環境保全事業 ⇒不法投棄ごみの収集、ヤンバルトサカヤスデのまん延防止および駆除業務など	480万円
2	認定農業者等担い手育成対策事業 ⇒認定農業者への農業機械購入助成	1,600万円
3	枕崎ブランド発信事業 ⇒「枕崎ブランド」の情報発信や販路拡大など	1,200万円
4	予防接種事業 ⇒定期予防接種、インフルエンザ予防接種助成	3,300万円
5	子ども医療費助成事業 ⇒18歳までの子ども医療費の自己負担額助成	2,900万円
6	小・中学校施設管理費 ⇒小学校児童用パソコン整備、小・中学校務支援システム導入経費など	3,440万円
7	ふるさと納税返礼事業 ⇒返礼品調達費用など	1億5,600万円